

日中はまだまだ残暑が続いていますが、朝夕は少しずつ過ごしやすくなり、夕方になると聞こえてくる虫の音に、秋を感じられるようになりました。大きいクラスの子どもたちは、公園での運動会の練習も始まり、かけっこでトラックを走る姿も一日一日力強さが増しています。「今日は〇番やった〜！」と順位を気にしたり、「1番になりたい！」という思いから、お家に帰って密かに自主練をしたりする子も居るとか…!?勝敗によって喜んだり、時には悔しい思いをしたり…。それでも最後まで一生懸命走る子どもたちの姿に毎回感動をもらっています。小さいクラスでは、音楽に合わせて体いっぱいリズムを刻む姿が何とも可愛い♥それぞれの年齢に応じた取り組み方で、体を動かすことを楽しんでいます。

子どもたちの思いや、頑張っている過程を大切にしながら、運動会に向けた活動を進めていきたいと思っています。日中と朝晩とで気温差の大きい時季ですが、体調に気をつけて元気に過ごしましょうね。



きむら そうたさん (5さい)
いのうえ ひなたさん (4さい)
つじ かずまさん (3さい)
よこた ことねさん (2さい)

しみず はるひさん (5さい)
すなだ ゆうまさん (4さい)
なかおか まなさん (3さい)
おたんじょうび おめでとう!



そうぐみより

10月の保育目標：友だちと同じ目的に向かって活動する中で、自分の力を発揮し、達成感を味わう。

運動会に向けて少しずつ練習をしています。九月のはじめに公園に行った時のこと。「草がいっぱい生えとるやん！」とまずはみんなで草引き。うさぎ組さんと一緒に出かけた時も「ゆっくり引っ張ってね。土はトントンて落とすんよ。」と優しく草引きの仕方を伝授していました。毎日続けたおかげですっかり公園が綺麗に♪みんなのやる気も満タンです(*^^*)

いろいろな運動遊びに挑戦する中で、逆上がりや跳び箱がもっとできるようにと練習を始めたのですが、腕の力をつけるために『壁倒立』をしています。目標は30秒！！みんなで数えながら頑張っています。そしてそして、何よりも真剣なのがかけっこ。一人ひとりの気持ちが全面に出て、日々入れ替わる順位。走りたい人同士で走ってみたり、スタートの場所をじゃんけんで決めてみたり…。考えをめぐらせながら、さぁ本番の組み分けはどうしようかと頭を抱えています(笑)

運動会で頑張りたいことを発表した時、やることがいっぱいと思ったみんな。「でも、そう組やけんでできるよね。」「みんなで協力したらできる！」と前向きな笑顔を見せてくれました。みんなで力を合わせ、最後の運動会に向けて取り組んでいきたいと思っています。



うんどうかい
がんばりまーす!!



日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4 避難訓練 	5 運動会 リハーサル① 	6 ハッピーデー 	7
8	9 スポーツの日	10 身長体重測定週間	11 運動会 リハーサル②	12	13 布団持ち帰り	14
15 福角会祭	16	17	18 るんるんウォーク	19 運動会 リハーサル③	20	21
22	23	24	25 運動会 リハーサル④	26	27 布団持ち帰り 園だより等配布	28 運動会
29 運動会 予備日	30	31	〈今後の行事予定〉 ★11月17日(金)…社会見学旅行(そう組) ★11月29日(水)…秋の遠足(園児と職員) ★12月22日(金)…わくわく発表会(クラスごとに行います)			



- *18日(水) 堀江中央公園で運動会の練習後、お弁当を食べる予定です。りす・くま・そう組は、るんるんウォークの準備をお願いします。
- *28日(土) 運動会を行います。(詳しくは、後日お知らせします)
- ☆運動会に向けた活動が多くなっています。動きやすい服装、足に合った運動靴で登園しましょう。リハーサルの日は、9時15分までの登園をお願いします。
- ☆引き続き、活動や天候に応じてシャワーをしたいと思います。運動会終了までは、プールバッグにフェイスタオル、着替え一式(上下服、下着、靴下)の用意をお願いします。
- ☆16日(月)~20日(金) 聖カタリナ高校3年生(2名)がインターンシップで各クラスに入ります。

感染症に気を付けましょう! 季節に関係なく一年を通して、感染症の流行が見受けられます。感染予防、病気の早期発見・治療に努めましょう!
~集団生活での感染拡大を防ぐために~

厚生労働省の「保育所における感染症ガイドライン」では、発熱後の保育園登園の目安について下記のように定められています。

- 24時間以内に解熱剤を使っていない
- 24時間以内に38℃以上の発熱がない
- 熱が37.5℃以下である
- 食事や水分が摂れている
- 全身状態がいい

咳や鼻水など、発熱以外にも症状がひどいときは安静にし、集団生活では周りにうつしてしまうリスクもあるため、子どもの様子を見ながら総合的に登園再開のタイミングを判断しましょう。